

次期スポーツ推進計画「10年後の理想像」と「施策の展開」

10年後の理想像	
理想像	理想像とのギャップ
ア 運動遊びなどを通じて、体を使った遊びが好きな子どもたちが増え、運動遊びが楽しいものだと感じることができている。	少子化や都市化などの影響により、子どもにとって遊ぶ場所、遊ぶ仲間、遊ぶ時間が少なくなっていることや、交通事故や不審者等への懸念から、外で体を動かして遊ぶ機会が少なくなっているため、体を使った遊びが楽しいものだと感じることができる機会が十分とはいえない。
イ 障がいの有無にかかわらず、子どもたちが一緒に運動遊びを楽しんでいる。	障がいのある子どもとない子どもが同じ運動遊びを行うことの利点等が十分認識されておらず、運動環境の更なる整備が必要である。
ウ 運動が好きな子どもたちが増え、休み時間や放課後に校庭や公園などで遊ぶ子どもたちが増えている。	H28年度の体力合計点をみると、小5男子は全国平均を上回るが、小5女子は全国平均を下回る。
エ 体育学習を通じて、運動を楽しむ資質や能力を高め、運動をする楽しみや喜びを実感している。	H28年度の体力合計点をみると、小5男子は全国平均を上回るが、小5女子は全国平均を下回る。
オ 地域のスポーツ活動やスポーツ少年団の活動に積極的に参加している。	スポーツ少年団の数や指導者の数が減少傾向にある。 (団数：H23, 596団体⇒H27, 565団体) 【長野県体育協会調】
カ 障がいのある子どもたちが、個々の障がいに応じた適切な運動指導が受けられている。	障がいのある子どもへの安全なスポーツ指導法や障がい特性を理解した指導者が不足している。
キ 地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。	実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人は12.5%と低い。 (TV等により日常的にスポーツ中継、スポーツ情報に接している人の割合は43%) 【H27長野県政モニターアンケート調査】
ク 生徒一人一人が体育学習を通じて、運動に関する知識や技能を身に付け、運動をする楽しさや喜びを実感している。	中学生女子は、「運動が好き・やや好き」と答える子どもが全国平均より低い。
ケ トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室などを通じて、トップスポーツへ夢や憧れを抱いている。また、トップアスリートの指導を受けることで競技力が向上している。	トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。
コ 中学校の運動部活動が適切に行われ、部活動を通じてスポーツの楽しさや喜びを味わい、より豊かな学校生活を送ることができている。	運動部活動に加入していない生徒に対して、スポーツの楽しさや喜びを感じさせる方策が不足している。
サ 余暇時間等を利用し、自ら様々なスポーツに挑戦し、スポーツを楽しむ能力・習慣が身についている。	余暇はスマートフォンなどのネット利用に多くの時間を充てられており、運動・スポーツをする習慣が身につけているとは言い難い。
シ 運動部活動や地域のスポーツなどに積極的に参加し、スポーツの楽しみや喜びを実感するとともに、全国大会や国際大会で活躍し、県民に夢や希望、感動を与えている。	H28年度の国体では、少年種別の獲得点は37位(H26は47位(最下位))であり、少年の競技力の低迷が課題である。また、少年の競技力低下は、将来の成年種別の競技力の低下にもつながる。
ス 幼児期からの運動遊びに関する取組が県内各地で活発になっている。	幼稚園・保育園や学校では長野県版運動プログラムの普及は進んでいるが、家庭や地域などへの普及を更に進め、効果的なプログラムにする必要がある。
セ 子どもたちが安全に遊べる場所が身近にあり、外で楽しく遊ぶことができる環境が整っている。	子どもたちが気軽に遊べる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
ソ 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子で楽しめる運動遊びの機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。	親子で参加できるスポーツイベントは増えているが、興味を引く内容にしたり参加しやすい時間帯に開催するなど、参加者を増やす工夫をする余地はある。
タ 学校や地域でスポーツイベントが活発に開催され、様々な場面でスポーツを楽しむことができる環境が充実している。	スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
チ 全国や国際舞台上で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。	ジュニア期からのタレント発掘事業は一部競技に留まっている。

施策の展開(現行計画)
<p>【長野県版運動プログラムの普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期から中学生期までの成長段階に応じて作成した長野県版運動プログラムが、幼稚園・保育所、学校、家庭や地域のクラブ等で実践されるように推進します。 ・モデル市町村を指定して、「キッズ運動遊びどこでもゼミナール」等の実技講習会を開催し、プログラムの普及を図ります。
<p>【幼児期からの運動の習慣化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びの中で、体を動かすことの楽しさを感じることができるよう、幼稚園・保育所、家庭や地域等で行う運動遊びの取組みを支援します。
<p>【学校における体力向上に向けた取組みの定着化の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「体力向上プラン」「一校一運動」等、各校の工夫した取組みを支援します。 ・ながのスポーツスタジアム、体力テストフィードバックシステム等により、データの分析や適切な目標の設定、記録への挑戦等について支援を行います。
<p>【指導者研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが楽しく運動に取り組み、体力やコミュニケーション能力等を高められるよう、体育センター等において指導者研修を実施します。
<p>【先進好事例の市町村への普及定着支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期からの一貫した体力向上策に取組む市町村の先進事例・好事例を、他の市町村に発信し、その普及を図ります。
<p>【専科教員の配置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専科教員を配置している小学校の体育授業における効果を検証し、今後の配置について検討していきます。
<p>【教員研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の研修機会を拡大し、教員の指導力向上を図ります。
<p>【安全で充実した武道学習の定着化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道必修化に伴い、体育センターでの研修や武道学習に関わる研究協議への支援など、教員の指導力向上を図る機会を充実させ、安全で効果的な指導を推進します。 ・地域の指導者等の積極的な活用による指導体制の充実や施設の整備、安全確認等について支援します。
<p>【運動部活動の適正化の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様なニーズや部員数の減少等に対応するため、複数校による合同部活動や複数種目を総合した総合部活動など、一層の工夫と柔軟な対応を推進します。 ・中学校の部活動と社会体育活動の果たす役割を明確にし、発達段階に応じた適正で効果的な活動を推進します。 ・体育センターでの研修講座等により、運動部活動の指導にあたる教員の指導力向上を図ります。
<p>【外部指導者、障害者スポーツ指導員等の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の多様なニーズに応えるため、地域のスポーツ指導者と連携した指導体制の充実を図ります。
<p>【魅力ある自然体験学習を安全に実施するための研修の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山岳総合センターでの研修講座等を通して、子どもが安全で楽しく野外活動ができるように指導者の研修を推進します。
<p>【障害のある児童生徒に対する支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校などにおいて、児童生徒の「個別の指導計画」に基づき一人ひとりのニーズや適性に応じた指導・支援の充実を図ります。 ・障害のある児童生徒とない児童生徒の「交流及び共同学習」において、ともに体育や運動を行うことにより交流を深める取組みを推進します。
<p>【学校体育施設の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体育活動が安全・快適に行えるように、耐震化やバリアフリー化等、学校体育施設の充実を図ります。
<p>【子どものスポーツ環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣が身につけていない子どもやスポーツが苦手な子どもに対して、多様なスポーツの機会を提供します。 ・(公財)長野県体育協会が行うスポーツ少年団の指導・育成を支援します。 ・体育センター、教育事務所等の実技指導、研修を充実し、子どものスポーツ活動を支える指導者を支援します。 ・子どもの多様なスポーツ活動が、適正で効果的に行われるための取組みを研究します。
<p>【障害のある子どもが運動をする機会の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害のある子どもを対象に開催しているスポーツ体験教室やイベント等を充実します。 ・障害のある子どもがいない子どもとともに運動する際に、障害の程度や種類に応じて必要な配慮がされるよう、関係者や保護者の障害に対する理解を促進します。

10年後の理想像

理想像		理想像とのギャップ
境	ツ 地域や学校で子どもたちが体を動かして遊ぶ場所が整備されている。	気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
	テ プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。	人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。
	ト 障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会などが積極的に開催されている。	障がい者スポーツの体験会や障がい者アスリートとの交流会の開催が十分ではない。
	ナ 仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。	気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。

施策の展開(現行計画)

--

※予測される社会変化からの視点

- 子どもの減少
- 小規模校の増加
- 情報化社会の進展

10年後の理想像

施策の展開(現行計画)

理想像		理想像とのギャップ	
人	ニ	余暇活動として仲間とスポーツを楽しんだり、積極的にスポーツイベントに参加するなど、スポーツをする習慣が身に付き、充実したスポーツライフを送っている。	余暇はスマートフォンなどのネット利用に多くの時間を充てられており、運動・スポーツをする習慣が身につけているとは言い難く、本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。(H27 20代:43.3%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】
	ス	競技スポーツに取り組む学生が、練習設備や支援体制の整った環境の中で、練習に取り組むことができ、最先端の医科学サポートや、より専門的な指導を受けることで競技力がさらに向上し、全国大会や国際大会で活躍している。	国民体育大会や全国規模の大会等で活躍が一部の種目・選手に偏っており、県全体の競技レベルの向上が必要となっている。また、傷害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学面からの支援が求められている。
	ネ	地域のスポーツに積極的に参加し、総合型地域スポーツクラブなどでスポーツを楽しんだり、またスポーツボランティアとして地域のスポーツを盛り上げる原動力となっている。	総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。また、スポーツボランティアの認知度が低い。
	ノ	地域のプロスポーツチームの試合観戦や県内で開催される各種スポーツ大会の応援などに参加し、みるスポーツの楽しさを実感している。また、スポーツボランティアとして大会開催や運営に協力し、地域のスポーツ振興に貢献している。	実際に競技場等に出かけ、スポーツを観戦する人の割合12.5%と低い。また、スポーツボランティア等に関わっている人の割合は8.9%と低い。
	ハ	育児や仕事の合間や休日等の余暇を有効に使い、家族や仲間とスポーツ活動を楽しみ、心身の健康を保っている。	本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。特に30代から40代にかけては30%以下と低くなっている。(H27 20代:43.3%, 30代:29.4%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】 運動・スポーツを行わなかった理由としては、20代及び30代とも「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も高く、20代で66.7%、30代で87.5%である。 【内閣府調:H27東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査】
	ヒ	社会人競技者として地域や企業に支えられながら、夢に向かって競技を続けている。また、競技引退後には、トップアスリートの経験や技術を活用する仕組みができています。	トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。
	フ	障がい者の程度に応じて楽しめるスポーツが普及し、それぞれに応じたスポーツを楽しんでいる。	障がい者の数は増えているが、スポーツを行っている者の数は減少傾向にある。
	ヘ	仕事などの合間にできる手軽な運動を日常生活に取り入れ、体力や健康を維持している。	本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。特に30代から40代にかけては30%以下と低くなっている。(H27 40代:29.8%, 50代:42.5%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】 運動・スポーツを行わなかった理由としては40代及び50代とも「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も高く、40代で70.6%、50代で64.9%である。 【内閣府調:H27東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査】
	ホ	障がい者スポーツ経験者が指導者として地域で活躍し、地域スポーツイベントなどを通じて、障がいへの理解が深まり、障がい者が地域でともに暮らす意識が醸成されている。	競技の指導技術と障がい理解を併せ持つ指導者が不足している。
	マ	年齢や体力に応じて、適切なスポーツ活動を継続することで余暇の充実と健康の増進を図っている。	本県における週1回以上スポーツに親しむ成人の割合(運動・スポーツ実施率)は、H26、H27と2年連続で下降し現状45.1%と50%を下回っている。60代以上については50%を上回り、成人の中でもっとも運動・スポーツ実施率が高い。(H27 60代:57.0% 70代以上:58.0%) 【H27 長野県県政モニターアンケート調査】 運動・スポーツを行わなかった理由としては、60代では「仕事(家事・育児含む)が忙しくて時間がないから」が最も高く、45.1%で70代以上では「年をとったから」が59.9%で最も高い。 【内閣府調:H27東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査】
ミ	一人でも手軽にできる運動が地域や家庭で浸透し、日常生活の中に取り入れることで、生活習慣病などを予防し、健康を維持しています。	運動不足が一因となり生活習慣病になる高齢者が多い。	

<p>【身近なところでスポーツに親しめる環境の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もが、生涯にわたってスポーツに親しむことができるよう、体育センター、山岳総合センター等の研修の充実を図ります。 総合型地域スポーツクラブの育成・支援を行い、地域のスポーツ活動機会の充実を図ります。 体育センターや教育事務所、(特非)長野県障がい者スポーツ協会等において、ニュースポーツの実技指導や用具の貸し出し等を行うなど、気軽に行えるスポーツの普及と、スポーツに親しむことのできる環境の整備に取り組みます。 <p>【スポーツイベントにおける取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県が主催する生涯スポーツイベントにおいて、幅広い年齢層の人々が楽しく参加できるよう内容の充実を図るとともに、障害者スポーツやレクリエーションの種目を充実させ、健常者と障害者が交流できるスポーツ機会を拡大します。 障害者スポーツ大会や地域における障害者スポーツ教室等の拡充を図ります。 <p>【スポーツボランティア等の活動機会の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種スポーツイベントへのスポーツボランティアの参加を促進し、スポーツを「支える人」を育成するとともに、その定着化を図ります。 ボランティアとして参加できる大会やイベントの情報提供を行います。 <p>【リハビリテーションとしてのスポーツの普及促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体機能の維持・向上や精神的な自立等を促すため、障害の程度や運動能力に応じたリハビリテーションとしてのスポーツを研究、普及促進します。 <p>【障害者の自主的なスポーツ活動の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツ指導者や競技団体等と連携して、障害者の自主的なスポーツ活動の継続・定着を支援します。 障害者の自発的なスポーツ活動を促すとともに、障害者スポーツに対する県民の理解を促進するため、積極的に障害者スポーツを広報します。 <p>【スポーツ事故のデータ把握と活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツによる事故や外傷、障害等に関する現状把握に努め、情報の共有による安全対策の充実を図ります。 <p>【指導者や施設管理者、競技者に対する専門的知識の普及・啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育センター、(公財)長野県体育協会、(特非)長野県障がい者スポーツ協会等が実施する各種研修の機会を通じて、最新のスポーツ医学的知見に基づくスポーツ事故・外傷・障害特性等に関する専門的知識の普及・啓発に努め、未然防止の取組みを推進します。 <p>【AEDの活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市町村やスポーツ団体に対し、AED設置の確認や不測の事態が生じた際に速やかにAEDを使用できる体制整備を図るよう普及・啓発します。 <p>【山岳遭難防止対策の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遭難者の約8割を占める山岳会等に属さない「未組織登山者」に対する啓発活動の強化など、山岳遭難防止対策の充実を図ります。 <p>【地域のスポーツ活動を支える多様な主体の連携支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブ、郡市体育協会、スポーツ少年団、公民館、スポーツクラブ等地域のスポーツ活動を支える団体間相互の連携を支援するため、必要な情報を提供します。 総合型地域スポーツクラブの指導者を学校や幼稚園・保育所等に派遣するなど、地域のスポーツ活動への支援を行います。 <p>【総合型地域スポーツクラブの育成と安定運営に向けての支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域スポーツセンターによる安定運営に向けてのアドバイスを行います。 総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を開催し、活動事例の情報共有、研修の実施や広報活動等を通じて活動の充実を図ります。 総合型地域スポーツクラブに指導者を派遣し、イベントや教室の開催を支援します。 <p>【地域のスポーツ指導者の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育センター等の生涯スポーツ研修により、地域のスポーツ活動を支える指導者の育成を図ります。 (特非)障がい者スポーツ協会等において、障害者へのスポーツ指導に必要な知識・技能を習得するための研修を行います。 <p>【スポーツ推進委員の活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートするスポーツ推進委員の研修を充実するとともに、市町村との連携のもと、その活動を支援します。 <p>【有資格指導者育成の推進と有効な活用方策の研究等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公認スポーツ指導者養成研修や障害者スポーツ指導員養成研修の受講を促すことで、より多くの公認スポーツ指導者等を育成するとともに、地域の指導者として自立するためのスキルアップを支援します。 <p>【指導者の相互派遣等クラブ間の連携強化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツクラブ等の中で、指導者の相互派遣等人材の交流が進むよう支援します。 <p>【アシスタントマネージャー資格取得の促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域スポーツセンターにおいてアシスタントマネージャー養成講習会を開催し、総合型地域スポーツクラブの運営に関わる人材の育成を推進します。 <p>【指導者が指導に専念できる雇用環境の研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブ等において、スポーツで活躍した選手等を地域の指導者として雇用できる環境について研究します。 <p>【誰もが安全・快適に利用できるスポーツ施設の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもや女性、高齢者、障害者を含む全ての地域住民が安全で快適にスポーツに親しめる環境を創り出すため、施設設置者に対し施設のバリアフリー化、耐震化を働き掛けます。 <p>【県営スポーツ施設の適切な維持管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の意見に十分配慮しながら、身近で利用しやすい施設となるよう、施設の充実を図ります。 <p>【武道を振興するための施設の検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> 武道を振興するための施設のあり方を検討します。
--

10年後の理想像

理想像		理想像とのギャップ
取り巻く環境	ム 仲間同士で気軽に楽しめるスポーツ施設が地域に整備されている。	気軽にスポーツができる施設や機会が十分整備されているとはいえない。また、スポーツ施設や公園などの老朽化が進み、施設の長寿命化や適切な維持管理が求められている。
	メ 気軽に参加できるスポーツイベントなどが地域で開催され、スポーツに親しむ機会が充実している。	スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
	モ アスリートが競技引退後も活躍する場があり、自身のセカンドキャリアに希望が持てる環境が整備されている。	国体で活躍する実力のある本県出身の有力選手が、大学卒業後も競技生活を続ける場合に、多くの選手が県外へ就職している。また、県内で就職を希望するアスリートが存在することや採用に関する認識が県内企業に不足していることや、現役引退後のセカンドキャリアに向けた計画的準備及び周囲の支援が不足している。
	ヤ プロスポーツ大会、全国大会、世界大会等の様々なスポーツ大会が県内各地で開催されている。	人気スポーツの大会や大規模大会等の開催が求められている。
	ユ 総合型地域スポーツクラブなどへの参加が増え、地域のスポーツを支える人材や指導者候補者が地域で育っている。	総合型地域スポーツクラブの加入者数は微増となっている。
	ヨ 親子で参加できるスポーツイベントなど、親子でスポーツを楽しめる機会が充実し、スポーツを通じて親子の絆が深まっている。	親子で参加できるスポーツイベントは増えているが、興味を引く内容にしたり参加しやすい時間帯に開催するなど、参加者を増やす工夫をする余地はある。
	ラ 年齢や体力に応じて楽しむことのできるスポーツの選択肢があり、実践するための機会や指導者が地域で確保されている。	年齢や体力に応じたスポーツを指導することができる指導者が不足している。

※予測される社会変化からの視点

- 人口減少
- 高齢化社会の進展
- 共生社会の進展

施策の展開(現行計画)

【施設の有効かつ効率的な活用】
 ・学校体育施設の開放に引き続き配慮するとともに、複数の団体による共同利用の促進など、一層の効率的な活用を検討します。

【スポーツ施設の整備及び運営面での工夫】
 ・民間の資金や経営手法等の導入による先進事例の調査・情報提供を行います。

【スポーツ施設管理者等の障害者スポーツへの理解促進】
 ・障害があることを理由に施設利用が制限されることなく、障害者が安全・快適に利用できる環境を整備するため、施設管理者や職員の障害者スポーツに対する理解を促進します。

【人的・物的資源の活用】
 ・総合型地域スポーツクラブから企業の健康教室等に指導者を派遣するなど、企業との結びつきを強化する方策を検討します。
 ・総合型地域スポーツクラブの活動において企業・大学の施設を活用したり、大学生等を指導者や運営補助者として派遣する事例について、総合型地域スポーツクラブや市町村などに広く情報提供します。
 ・大学の地域スポーツ活動への貢献について意見交換の場を設定するなど、大学との連携方策を検討します。

【若壮年期のスポーツ活動の促進】
 ・生活習慣病予防のため、体を動かす機会が少なくなりがちな働き盛りの世代が日常的な運動に取り組めるよう、健康診断や保健指導等の機会を通じて意識啓発に努めます。

【高齢者が無理なく身体活動に取り組めるスポーツ機会の拡充】
 ・生きがいづくりや介護予防の観点からも、高齢期におけるスポーツ活動が積極的に取り組まれるよう支援します。
 ・高齢者の身近な場所での運動を支援する運動支援ボランティアの養成を行います。

10年後の理想像

		理想像	理想像とのギャップ
人	リ	トップアスリートとの交流イベントやスポーツ教室などを通じて、トップスポーツへ夢や憧れを抱いている。また、トップアスリートの指導を受けることで競技力が向上している。	トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。
	ル	運動部活動や地域のスポーツなどに積極的に参加し、スポーツの楽しみや喜びを実感するとともに、全国大会や国際大会で活躍し、県民に夢や希望、感動を与えている。	H28年度の国体では、少年種別の獲得得点は37位(H26は47位(最下位))であり、少年の競技力の低迷が課題である。また、少年の競技力低下は、将来の成年種別の競技力の低下にもつながる。
	レ	競技スポーツに取り組む学生が、練習設備や支援体制の整った環境の中で、練習に取り組むことができ、最先端の医科学サポートや、より専門的な指導を受けることで競技力がさらに向上し、全国大会や国際大会で活躍している。	国民体育大会や全国規模の大会等で活躍が一部の種目・選手に偏っており、県全体の競技レベルの向上が必要となっている。また、傷害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学面からの支援が求められている。
	ロ	社会人競技者として地域や企業に支えられながら、夢に向かって競技を続けている。また、競技引退後には、トップアスリートの経験や技術を活用する仕組みができている。	トップアスリートを活用したスポーツイベントやスポーツ教室などが十分開催されているとは言えない。
全国や世界で活躍する選手の育成	ワ	全国や国際舞台で活躍する可能性のある選手を発掘する体制が整備されている。	ジュニア期からのタレント発掘事業は一部競技に留まっている。
	ヲ	ICTや最先端スポーツ医・科学を利用したトレーニングが一般競技団体間に普及し、より効果的・効率的な選手育成が図られている。	一部ではスポーツ医・科学に基づく実技講習等を実施する動きはみられるが、更なる普及が必要である。
	ン	異種競技間の交流や合同トレーニングの機会が増え、異種スポーツの知識や技術の活用、選手のトランスファーのきっかけになっている。	一部競技(陸上競技等)では種目間でのトランスファーは図られているが、異種競技間での動きはあまり見られない。
	ダ	企業等がアスリートの競技継続に対する理解が深まり、アスリートの正社員採用が普及することで、競技と仕事をバランスよく両立できる環境が整っている。	企業のアスリートの就職に関する理解や認識が広まっておらず、受け入れ体制が不十分である。

※予測される社会変化からの視点
 ○地域格差
 ○女性アスリートへの対応

施策の展開(現行計画)

<p>【オリンピック・パラリンピック等の国際舞台や国民体育大会等の全国規模の大会で活躍できる選手の育成強化】 ・国際舞台で活躍できる選手の育成や国民体育大会等の全国規模の大会での成績向上を図るため、(公財)長野県体育協会と連携し、各競技団体の強化合宿、強化練習等を効果的に実施できるよう支援します。 ・全国障害者スポーツ大会等の全国規模の大会において、それぞれの障害の種類や程度に応じて活躍できるよう、(特非)長野県障がい者スポーツ協会等と連携して、競技力向上を支援します。 ・SWANプロジェクトにより、世界で戦える高い資質をもった人材を発掘し、冬季オリンピックメダリストを育成します。</p> <p>【一貫指導体制の充実】 ・(公財)長野県体育協会と連携し、一貫指導の意義や必要性についての啓発を進め、各競技の一貫指導体制の構築を支援します。</p> <p>【指導者養成の取組みへの支援】 ・体育センターの研修の充実により、指導者の資質向上を目指します。 ・競技団体による中央競技団体から優秀指導者を招へいしての指導者養成を支援します。 ・(公財)長野県体育協会と連携し、指導者講習会やトップ指導者ミーティング等を開催し、指導者の資質向上を図ります。</p> <p>【国民体育大会等の意義や競技結果の発信】 ・国民体育大会や全国障害者スポーツ大会への県民の関心や競技者のモチベーションを高め、県民一丸となって応援ができるよう広報活動を充実させます。</p> <p>【競技者へのマルチサポートの推進】 ・各競技の強化合宿や強化練習等へスポーツドクター、トレーナー、栄養士等を派遣し、競技者のコンディショニング調整をサポートします。 ・競技者、指導者が体力や健康状態を正確に把握し、トレーニング等をより効果的に実施できるようメディカルチェックを実施するとともに、ドーピング防止等医科学の面からサポートします。</p> <p>【子どもたちがスポーツに夢を持てる選手との交流の推進】 ・文部科学省や中央競技団体等と連携し、トップアスリートとの交流の場を拡大します。 ・「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」による四つのプロスポーツチームの選手と子ども達がふれあう機会をつくります。</p> <p>【ジュニア選手の発掘・育成の推進】 ・全国規模の大会で活躍の期待できる学校やクラブを強化指定し、ジュニア世代の強化を図ります。 ・各競技の一貫指導体制によるジュニア世代からの選手強化を支援します。 ・世界で活躍する冬季オリンピックメダリストを見出し、育成を目指すSWANプロジェクトを推進します。 ・部活動における指導体制や練習環境の充実など、有力選手が県内にとどまりトレーニングに取り組める環境を研究します。</p> <p>【競技団体・学校体育団体の一体となった強化】 ・本県開催が予定される全国大会で、本県選手が上位に入賞できるよう、長野県中学校体育連盟や長野県高等学校体育連盟、(公財)長野県体育協会、関係競技団体等と連携しながら、選手強化に取り組みます。</p> <p>【中・長期にわたる選手の育成強化の取組み】 ・本県において次回開催される国民体育大会に向けて、中・長期的な視点で選手の育成強化に取り組みます。</p> <p>【トップレベルの選手が活躍する場の創出】 ・学校体育や運動部活動の充実の観点から、トップレベルの選手としての経験を有する優れたスポーツ指導者を学校で活用することを推進します。 ・トップレベルの選手が総合型地域スポーツクラブで雇用されている事例や地域のスポーツ指導者として活躍している事例の紹介などを通じて、地域における人材の活用を支援します。 ・地域のスポーツ活動の中で育成されたアスリートが、将来的に総合型地域スポーツクラブ等の地域の優れたスポーツ指導者となって、自身の技術や経験、人間的魅力等を還元し、併せて指導者としてのスキルアップを図っていける好循環サイクルの確立を検討していきます。</p> <p>【ジュニア期における適切な支援】 ・ジュニアアスリートの育成に関わるスポーツ指導者等は、長期的な視点に立ち、個々のアスリートの特性や発達段階、学業とのバランスや本人のキャリア形成にも配慮した適切な支援に努めます。</p> <p>【選手が県内にとどまり競技生活を継続できるしくみづくり】 ・好循環の創出に向けた取組みに対する企業側の理解が一層深まるよう、経済団体、競技団体等を交えた議論の場を設けます。</p> <p>【大学との連携方策の検討】 ・スポーツ医科学研究や人材の交流、総合型地域スポーツクラブ等への運営支援やスポーツ指導者の養成などにおいて、大学の有する様々な資源に着目した連携方策を検討します。</p>
--

10年後の理想像

		理想像	理想像とのギャップ
多 面 性 の 活 用	ス ポ ー ツ の 持 つ 取 り 巻 く 環 境	b スポーツ大会やスポーツイベントを通じて、県内外・国内外問わず様々な地域間の交流が盛んになっている。	スポーツイベントは数多く開催されているが、内容の充実等更なる改善の余地がある。
		c 山岳スポーツやウィンタースポーツなどの長野県ならではの魅力あふれるスポーツを楽しむために日本全国・世界各地から観光客が訪れている。	外国人観光客が安全にスポーツを楽しむため配慮や更なる環境整備が必要である。
		d 長野県スポーツコミッションが核となり、スポーツを通じた誘客による地域経済の活性化が図られている。	平成28年に長野県スポーツコミッションが設立され、スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致等の推進による、地域地域経済の活性化が求められている。
		e 障がいのある人となない人が同様に楽しめるスポーツやスポーツイベントが普及し、同じ場所・時間で競い、楽しむ環境や機会が充実している。	障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめるようなスポーツの認知度は低く、また、そうしたスポーツの指導者が少ない。

第82回国民体育大会及び第27回全国障害者スポーツ大会の開催に向けた取組

施策の展開(現行計画)

<p>【競技団体等との連携と「スポーツの持つチカラ」の継続的な発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県関係選手の活躍は、県民に対し元気と活力を与え、地域の一体感の醸成に寄与することから、積極的な情報発信に努めます。 <p>【「スポーツによる元気な信州づくり包括連携協定」に基づく連携事業の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内に本拠地を置く四つのプロスポーツチームと連携・協力して、長野県全体の元気の創出につながる活動に取り組みます。 ・プロスポーツチームが実施する地域の発展に寄与する社会貢献活動等について広く情報発信します。 <p>【身近で共に取り組めるスポーツの普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域において、人々が共に運動する機会を増やし、健康で豊かな人間関係を築けるよう、身近で共に取り組めるニュースポーツ等の普及を図ります。 <p>【スポーツと地域の資源を活用した地域の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツツーリズムによる地域の活性化を目的とする連携組織(いわゆる「地域スポーツコミッション」)の先進事例を市町村に紹介するなど、スポーツを地域の観光資源とした特色ある地域づくりを支援するため、市町村、関係団体、企業等との連携・協働を推進します。 <p>【スポーツの視点からのアプローチによる誘客促進等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恵まれた自然環境を活かしたスポーツ合宿の誘致を支援します。 ・ファミリーを中心に誰もが楽しめる魅力あるスノーリゾートのプロモーション「信州“Family Style”」を推進します。 <p>【国際競技大会や国民体育大会等の誘致を通じた地域経済の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬季オリンピック・パラリンピック、スペシャルオリンピックスの遺産(ソフト・ハード・スキル)を最大限に生かし、国際競技大会や全国規模の競技大会の誘致に取り組み、観光の振興、地域経済の活性化に結び付けていきます。
--